

## 2月放送総局長定例記者会見要旨

### (1) 2022年度 番組改定について

#### 【番組改定について】 (正籙放送総局長)

本日の会見では、4月からの新年度番組改定についてご説明する。新年度は、NHKがテレビ本放送を開始して70年の節目の年にあたる。私たちは、公共メディアとして視聴者のみなさまのお役に立つため、そして「新しいNHKらしさ」を実感していただくため、テレビの見られ方の変化やインターネットの利用時間の急増なども踏まえ、開発番組のトライアルを続けるなど、さまざまな検討を重ねてきた。「新しいNHKらしさ」とは何か。それは、「ますます多様になっていく視聴者のみなさまのニーズにマッチしたコンテンツを様々な手段でお届けし、社会にとって必要と思われる公共メディアNHKならではの放送、サービスを発信していくこと」にあると考える。新年度改定では、適切な資源配分を行う「ジャンル管理」を徹底した。ジャンルの視点からNHKへの期待度や視聴者ニーズを調査、分析し、これからご紹介する報道、教育番組の強化などを行った。4月からのNHKを、少しでも「楽しみな番組が増えたな」「NHKがあつてよかったな」と思っていたけると幸いだ。

それでは、ポイントについてご説明する。

まずは、命と暮らしを守る報道の強化。そのため、新たに「サタデーウオッチ9」をスタートさせる。土曜の夜間に大型のニュース番組を放送するのは初めてとなる。「クローズアップ現代」は、家族視聴など幅広い世代に見てもらえるようにリニューアルして、ゴールデンタイムで放送する。

また、“人生100年時代”の到来に合わせて、幅広い世代の方々に学びの機会を確保していただけるよう、教育コンテンツを強化する。子どもたちの帰宅時間が変化していることから、「おかあさんといっしょ」の放送枠を午後6時台に移設するほか、平日の夜間帯に、大人向けの教養番組を重点的に配置することとした。

さらに、月曜から木曜の夜には、4夜続けて放送する15分の連続ドラマ、「夜ドラ」を編成する。若い世代の多様な関心に応えて、続きが気になるストーリーを旬の出演者とお届けする。一日の終わりの“楽しみなひととき”としていただければと願っている。

現在、報道番組を放送している日曜の夕方には、家族そろってご覧いただける番組をお届けする。テレビの前に、再び家族が戻ってきて欲しいという思いを込めて編成した。

“公共メディアの原点”に立ち返り、番組改定を検討した結果、総合テレビとEテレを合わせた改定率は42%と、2003年の地上デジタル放送開始以来、最大規模となった。新番組の定着を目指しながら、常に視聴者のみなさまの声に耳を傾け、時代のニーズに応えていく番組の開発にも、引き続き力を入れていく。

#### 【改定の強化ポイントについて】 (正籙放送総局長)

続いて、「2022年度改定の強化ポイント」についてご説明する。今回の編成にあたっては、1日をいくつかの時間帯・ゾーンに分け、それぞれにふさわしい演出やテーマ、出演者を配したコンテンツを置くことを心がけた。放送番組時刻表上に青く点線で囲んだ部分が、今回重視した“ゾーン”だ。総合の時刻表の右上、土日の午後6時台には、親子を中心とした家族で見ていただきたい番組を集めたゾーンを、その下の午後7時台から8時台にかけては、家族に加えて幅広い視聴者に見ていただきたい番組のゾーンを設定して、多彩な番組を編成する。同じく表の右側、真ん中やや下にある、月曜から土曜の夜10時台には、「大人の教養・エンタメゾーン」を。そのすぐ後の時間帯には、若い人たちに見ていただきたいゾーンとして、若年層をターゲットにしたゾーンを設けた。

Eテレも、時間帯ごとに視聴者層を想定して編成している。放送番組時刻表の右上の方、午後4時台から6時台では、「生活実態に合わせた幼児・子どもゾーン」を、より多くの方に番組を楽しんでいただけるよう見直した。具体的な7つの強化ポイント、新しい番組の詳細については、担当の理事からご説明する。

## 1. 命と暮らしを守り、確かな情報を伝えるニュース・報道番組の強化 (小池副総局長)

私からは、1つ目「命と暮らしを守り、確かな情報を伝えるニュース・報道番組の強化」についてご説明する。新型コロナウイルス感染症が世界的に流行する中、大規模な災害が相次ぐなどし、人々の先行きへの不安が強まっている。確かな情報を伝えることで、みなさんの命と暮らしを守ることにつなげたいと考えている。この度、新番組として、総合テレビの土曜夜間に初めて、大型ニュース番組「サタデーウオッチ9」をスタートさせる。国内外の最新ニュースはもちろん、ビジネスや生活に役立つ情報、全国各地・世界各地の元気が出る話題、知恵と工夫を凝らした先進的な取り組みなど、幅広い世代の視聴者の関心に応える内容をお届けする。メインキャスターは、赤木野々花アナウンサー。2月26日に、パイロット版を放送する予定だ。また、「クローズアップ現代」は内容を刷新し、月曜から水曜の午後7時30分に移設する。物事の本質に迫り、「きょうひとつ、大切なことを知ることができた」という体験を、放送とデジタルでお届けしていく。平日月曜から木曜の午後5時台もリニューアルしていく。「ニュースLIVE! ゆう5時」は“日本列島の今をライブで伝える”をコンセプトに、その日の出来事をコンパクトにまとめたニュースと各地からの中継で、その日、その場所の空気を、視聴者が放送を通じて共に体感できるような番組を目指す。ご期待いただきたい。

## 2. 平日ゴールデン帯、週末の夕方、家族視聴など幅広い視聴者に向けたコンテンツを編成

(若泉副総局長)

私からは、強化ポイントの2番目から6番目についてご説明する。まず、2番目のポイントについて。在宅率が高い平日ゴールデン帯に、家族で楽しく見られ、コミュニケーションの起点となるような番組を編成する。新番組として、木曜午後7時57分に、「あしたが変わる トリセツショー」がスタートする。健康・食・生活などから選んだテーマを科学の力で深掘りする。目からうろこの「知られざる真実」や、本当に役立つお得なワザに満ちた“トリセツ”、取扱説明書を作り上げ、華やかなショーとしてお届けする。さらに、在宅率の高い日曜の午後6時台には、Eテレの特集番組をバージョンアップした「香川照之の昆虫すごいZ(ゼット)！」「超ギョギョッとサカナ★スター」を新設。家族全員でリラックスして見られ、知的好奇心を満たす時間帯として強化する。

## 3. 人生100年時代、世代やライフステージに合わせた教育コンテンツを編成 (若泉副総局長)

続いて、3つ目のポイント。「人生100年時代」の今、さまざまな世代、ライフステージに合わせた教育コンテンツを編成する。社会状況が変化し、共働き世帯が増えるにつれ、保育園児も増加している。今回、私たちは、小さな子どもがいる家庭の生活実態に合わせて、Eテレの夕方の編成を変更することにした。Eテレ放送番組時刻表の右上、午後4時台から6時台の青い点線で囲んだ部分。これまで午後4時台に放送していた幼児番組『おかあさんといっしょ』と『みいつけた!』を、保育園児の帰宅時間のピークにあわせて、午後6時台に移設する。『おかあさんといっしょ』を午後6時台に放送するのは、番組が始まって以来、初めてのことになる。それに伴い、午後4時台には『にほんごであそぼ』、『えいごであそぼ with Orton』を移設する。幼稚園や小学校から帰宅した子どもたちが楽しく学べる番組を編成する。さらに午後5時台には、夕食前のひとときを子どもたちがワクワクしながら楽しめるよう、『天才てれびくんhello』『ビットワールド』や、人気アニメ『おじゃる丸』を移設する。これまで以上に、多くの子どものたちに見ていただければと思う。同じくEテレの平日夜は、多彩な文化や教養に触れ、人生を豊かにしてくれる「大人のライフ・教養ゾーン」として強化する。会長会見でもお伝えした通り、月に1回、火曜日の夜10時45分から、「NHKアカデミア」を新たに放送する。第一線で活躍する大学教授やクリエイターが、今最も面白いと思うテーマで語る、新しい講座番組だ。放送とWEBサイトで学びの機会を提供していくNHKラーニングとも連携。いつでも見られる「デジタル映像テキスト」として掲載していきたい。

## 4. 夜10時台、大人向け教養・エンターテインメント番組を強化 (若泉副総局長)

ポイントの4つ目。一日の終わりにテレビを落ち着いて見る方が多い夜10時台には、見ごたえのある、大人向けの本格的な教養・エンターテインメント番組を編成する。新番組の『映像の世紀 バタフライエフェクト』は、1995年に放送を開始した『映像の世紀』の新シリーズになる。番組では、世界各地から貴重なアーカイブ映像を収集。蝶の羽ばたきのような、ひとりひとりの小さな営みが、い

かに世界を動かしていくのか。人類の歴史に秘められた、壮大なバタフライエフェクトの世界をお届けする。

#### 5. 平日プライム帯に若い視聴者向けのゾーンを設定 (若泉副総局長)

総合テレビの午後10時台後半から11時台にかけては、「若年層ターゲットゾーン」を設定した。話題性のある連続ドラマや多様な番組を配置して、若年層にも楽しんでもらえる番組を編成していく。月曜から木曜の午後10時45分に、新たなドラマがスタートする。「朝ドラ」ならぬ「夜ドラ」。旬の出演者で、話題の原作を基にしたドラマやオリジナルドラマをラインナップしていく。15分という見やすいサイズなので、見逃した場合でも、週末にNHKプラスでイッキ見するなど一人一人の生活スタイルにあわせて視聴していただける。最初のシリーズは、大藪春彦賞を受賞した気鋭の作家、辻堂ゆめさん原作の学園ミステリー、「卒業タイムリミット」。さらにこの後、このゾーンで月曜にお届けするのは、阿佐ヶ谷姉妹が大家を務める、ちょっと不思議なアパートが舞台の「阿佐ヶ谷アパートメント」。年代も性別もバラバラな住人たちの、ダイバーシティ・エンターテインメント番組。これまで開発番組として2回放送してきたが、今回は定時番組としてお届けする。また、このゾーンでは、視聴者の意向を見ながら番組を入れ替えるなど、多様な番組を編成していきます。

#### 6. 地域のみなさまとふれあう機会を強化 (若泉副総局長)

6番目のポイント。NHKでは、地域のみなさんにご参加いただき、一緒に作りあげる番組を長年にわたって制作してきた。新年度は、こうした番組の開発や地域での収録を増やし、全国で200回以上実施する。特に、教育、子ども向けの公開番組を、今年度より大幅に増やし、あわせて26回実施する。この中には、「ニャンちゅうの宇宙に夢チュー！」や「ノージーのひらめき工作キャラバン」など、新たに開発した番組もある。また、大変人気のある『おかあさんといっしょ』については、地域のNHKスタジオで収録する機会を、今年度の3か所から8か所に増やす。Eテレの人気者が、みなさんの街を訪れる。親子で楽しい時間をお過ごしいただくことで、子どもたちの健やかな成長を後押しできればと願っている。

#### 7. 東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを生かした編成 (小池副総局長)

強化ポイントの最後、「東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを生かした編成」。BS1の放送時刻表、日曜の午後3時台、4時台をご覧いただきたい。新しいスポーツの世界にいざなう「アーバン&NEWスポーツ応援ゾーン」を新設して、月2回程度放送していく。東京オリンピックで大きな注目を集めた「スケートボード」や「スポーツクライミング」などのアーバンスポーツのほか、パリオリンピックで正式競技に採用された「ブレイキン」や、街中などを縦横に跳び回る「パルクール」といった新スポーツを取り上げる。コアなファンだけでなく、幅広い視聴者のみなさまに見ていただけるよう、ルールや注目選手などを丁寧に紹介しながら、新しい興奮と感動の世界をお楽しみいただく。また、東京オリンピック・パラリンピックでは、手話を取り入れた放送を多くの方々にご覧いただいた。これを受けて、手話番組の拡充も進めていく。より多くの方々に手話に触れていただくため、三宅健さんが出演する「5分でみんなの手話」や、長濱ねるさんが出演する「手話シャワー」を新設する。総合テレビとEテレで、あわせて週6回程度放送する。さらに、「ダーウィンが来た！」や「ドキュメント72時間」といった、総合テレビでお馴染みの番組に手話を付ける取り組み、「手話で楽しむみんなのテレビ」の制作を増やしていく。多くの視聴者のみなさんが安心して視聴し楽しめる番組をお届けする。

(詳細は報道資料を参照)

#### (2) 2022年度 番組キャスターについて (正籙放送総局長)

2022年度の番組を担当するアナウンサーが決まった。主な番組について、ご説明する。2022年度は、これまでにない規模の改定となり、番組の“顔”ともなるアナウンサーも大幅に刷新した。のべ174人のアナウンサーが番組を担当するが、そのうち101人、率にして58%が、新たな担当者となる。

## 【総合テレビ】

まず、総合テレビ。「おはよう日本」は、この春、松山拠点放送局から異動する首藤奈知子アナウンサーと、現在正午のニュース担当の三條アナウンサーがキャスターを務める。この2人が中心となって、地域で活躍してきた若手アナウンサーらも加わり、1日の始まりをライブ感あふれる演出でお伝えする。夕方の新番組「ニュースLIVE! ゆう5時」は、高瀬アナウンサーと片山千恵子アナウンサーが担当する。片山アナウンサーは、エンターテインメント番組の経験が豊富で、2人のコンビで、その日のニュースをコンパクトに、日本各地の夕方の表情を生き生きと伝える。平日の「ニュース7」は、瀧川剛史アナウンサーに加え、新たに林田理沙アナウンサー、今井翔馬アナウンサーが担当する。月曜日から水曜日の夜7時半から放送する「クローズアップ現代」は、桑子アナウンサーが務める。“こういうことが、今、知りたかった”という視聴者のニーズに応じて、ひとつのテーマに深く迫る。「ニュースウォッチ9」も大きく変わる。青井実アナウンサーと山内泉アナウンサーが、田中キャスターとともに、3人でキャスターを務める。土曜日の夜には、新たな大型ニュース報道番組「サタデーウォッチ9」が始まる。赤木野々花アナウンサーと、この春まで地域局で活躍してきた、20代のホルコム ジャック和馬アナウンサーと吉岡真央アナウンサーを中心に、くつろいだ雰囲気で見聴者の興味・関心に応える幅広い話題をお伝えしていく。ゴールデンタイムから2つの番組をご紹介します。水曜日に放送する「ロコだけが知っている」。サンドウィッチマンのお2人と杉浦友紀アナウンサー。地元、ローカルへの愛にあふれる「ロコ」たちとともに、地域の魅力を楽しんでいただく。土曜日に放送している「ブラタモリ」は、案内役のアナウンサーが野口葵衣アナウンサーに代わる。野口アナウンサーは、福岡放送局に所属したまま、隔週で福岡の夕方のニュース番組も担当する。

## 【Eテレ】

続いてEテレの番組。月曜日から水曜日放送の「ハートネットTV」は、新たに中山果奈アナウンサーが加わる。多様な価値観を認め合い、誰もがより生きやすい社会の実現に向け、情報発信の強化を図る。日本の古典芸能を紹介する金曜日の新番組「新・につぼんの芸能」は、俳優の高橋英樹さんと庭木櫻子アナウンサーが、新しい感性で、能や文楽、歌舞伎などの魅力をわかりやすくお伝えする。

## 【BS1】

BS1では、「スポデカラ!」が月1回放送のレギュラー番組となる。タレントの田村淳さんと廣瀬智美アナウンサーが、スポーツの力で町に希望を灯そうと奮闘するみなさんを応援する。

## 【BS P】

BS Pの番組。火曜日放送の「ヒューマニエンス」は、俳優の織田裕二さんと藤井彩子アナウンサーが人体の神秘に迫る。この番組は、総合テレビ水曜日夜11時台の新番組「ヒューマニエンスQ (クエスト)」でも、コンパクトにお楽しみいただける。

## 【R1】

ラジオ第一の番組。朝のニュース情報番組「マイあさ」のキャスターをベテランの阿部渉アナウンサーが務める。豊富な経験を活かし、リスナーの皆さんに元気な朝をお届けする。そして、ラジオを担当するアナウンサーに、中堅・若手のアナウンサーを起用した。夜のニュース情報番組「NHKジャーナル」の打越アナウンサー、新番組「ジャーナルクロス」の佐藤アナウンサーと八田アナウンサーは、みな30代。リスナー層を広げながら、命と暮らしを守るラジオならではの情報を届けていく。

## 【地域貢献】

最後に、NHKは新年度、地域放送の強化を経営の重点事項の1つとしている。総合テレビ月曜日放送の「鶴瓶の家族に乾杯」を担当する小野文恵アナウンサーは、この春、ふるさとの広島放送局に異動し、中国地方や広島県向けの放送も担う。ほかにも、「ニュースウォッチ9」を担当している田所拓也アナウンサーが、出身地愛知県の名古屋放送局に。「おはよう日本」を担当している新井秀和アナウンサーが、勤務経験のある福岡放送局に異動する。全国放送の“顔”が、地域に根ざした放送サービスを担うことで、地域の発展に貢献していく。

(詳細は報道資料を参照)